

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成26年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム

「エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク事業モデルの社会実装」

採択年度 平成26年度

実装責任者氏名 (山野則子 大阪府立大学 教授)

## 1. 概要

### I 効果的モデル構築

実施マニュアル・評価マニュアルの活用を各地域で実践した。

拠点地域での実装を定着させるべく、ワークショップなどを開催した。

全体では、

- ①各地域の班に提示する成果をまとめ、レクチャー資料を作成した。
- ②実践者参画型報告会の運営・開催を重ね、工夫点の共有を行った。
- ③Webシステムの開発を行った。

### II 切れ目のない支援システムの構築

子どもの貧困、生活困窮、子ども若者の課題、児童虐待、孤立など子育て支援、健全育成的課題などの支援的視点からの報告、検討を行った。

## 2. 実装活動の具体的内容

### I 効果的モデル構築

平成25年度に作成した冊子版の『効果的なスクールソーシャルワーカー配置プログラム実施（改訂版）マニュアル・評価マニュアル～全国調査、試行調査の実証、実践家の議論を経て～』（以下、「マニュアル」とする）を、ウェブ版マニュアルとして活用するため、委託によるウェブ構築を行った。平成26年度末時点で、テスト版の構築は完了し、各地域での活用を開始している。

また、拠点地域での実装を定着させるべく、ワークショップなどを開催した。平成26年度は、研究組織全体では、11月と2月に合計2回のワークショップを開催した。11月のワークショップでは各地域で冊子版のマニュアルを活用した地域のメンバーより、活用状況やその成果・課題などを報告してもらい、それに基づいてディスカッションを行った。各地域特有の課題や、マニュアルについて改善すべき点などが明らかになった。

2月のワークショップでは、各地域で実装のために研修をどのようにして進めているかという情報交換に加え、モデル的なワークショップの試行とそれに基づくディスカッションを行った。ワークショップを進めるにあたってのよりよい方法を模索し、その結果を大阪府立大学メンバーにて検討し、洗練させることができた。

各地域でも、教育委員会を中心に開催するワークショップや研修に大阪府立大学のメンバーが赴き、マニュアルを活用した取組みを推進した。

以上の活動を経て、各地域の班に提示するレクチャー資料を作成した（委託ではなく、学内印刷にて作成）。平成26年度は一部のメンバーにのみ配布して改善を重ね、平成27年度、改訂版として新たに作成する。

## II 切れ目のない支援システムの構築

実装促進組織として、切れ目のない支援システム検討会を組織した。子どもの貧困、生活困窮、子ども若者の課題、児童虐待、孤立など子育て支援、健全育成的課題などの支援的視点からの検討を行うため、検討会のうち可能なメンバーには上述の11月に開催したワークショップに参加いただき、コメントや報告を求めた。

### 3. 理解普及のための活動とその成果

#### (1) 展示会への出展等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト

#### (2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2014年11月23日	効果的なスクールソーシャルワーク配置プログラムのあり方研究会——エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク事業モデルの社会実装	CIVI 北梅田研修センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域で冊子版のマニュアルを活用した地域のメンバーによる報告</li> <li>・全員でのディスカッション</li> </ul> 43名の参加		
2015年2月22日	効果的なスクールソーシャルワーク配置プログラムのあり方研究会——エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク事業モデルの社会実装	I-siteなんば	各地域での研修の進め方に関する報告  全員でのディスカッション  22名の参加 ※研修の構造化について議論するため、参加者研修を実施する自治体に限定		

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

①新聞報道

毎日新聞「高校内カフェで中退防げ」(2015.1.28)

朝日新聞「子を孤立させないで」(2015.3.2)

日本経済新聞「子ども安否チームで確認」(2015.3.14)

②TV放映

2015年3月6日

NHK総合19時30分～19時55分 『特報首都圏』

「見過ごされた“SOS”～検証・川崎市中1殺害事件～」

2015年3月30日

NHK Eテレ18時55分～19時25分 『Rの法則』

③ラジオ報道

④雑誌掲載

(4) 論文発表(国内誌\_\_\_\_件、国際誌\_\_\_\_件)

山野則子(2015)『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワークー現場で使える教育行政との協働プログラム』(編著)明石書店.

山野則子(2015)「効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム・モデルの開発」『ソーシャルワーク研究』40(4), 23-34.

駒田安紀・山野則子(2015)「効果的スクールソーシャルワーカー配置プログラム構築に向けた全国調査ー教育委員会担当者による効果的プログラム要素の実施状況およびスクールソーシャルワーカーによる実施状況との相関分析」『子ども家庭福祉学』14, 1-12.

(5) WEBサイトによる情報公開

エビデンス・ベスト・スクールソーシャルワーク

<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/index.html>

(6) 口頭発表(国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①招待講演(国内会議\_5\_件、国際会議\_0\_件)

山野則子「海外インターンシップ」「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 インターンシップ等の取組拡大 情報交換会」文部科学省、東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場、2014年12月19日

山野則子、分科会コーディネーター、平成26年度全国家庭教育支援研究協議会、文部科学省、2015年1月28日

山野則子「子供の貧困対策検討会におけるスクールソーシャルワーカーへの期

待」平成26年度「スクールソーシャルワーカー活用事業」連絡協議会、文部  
科学省東館3階講堂、2015年1月30日  
山野則子「スクール（学校）ソーシャルワーカーの活用をめぐる動向とさらなる  
実践力の向上に向けて」2014年度全国社会福祉教育セミナーコーディネイ  
ター兼パネラー、日本福祉大学、2014年11月1日  
山野則子「スクールソーシャルワークの実際」愛知県臨床心理士会、2014年11  
月

② 口頭講演 （国内会議  2  件、国際会議  0  件）

山野則子、横井葉子、大友秀治「SSW事業プログラムにおける実践家参画型の  
改善・形成評価の成果と課題～ワークショップにおけるプログラムの改善、  
実践家評価人材の育成・成長～」日本学術振興会科学研究費補助金【基盤研  
究（A）】「実践家参画型福祉プログラム評価の方法論および評価教育法の開  
発とその有効性の検証」科研・企画総括研究班研究成果報告会、日本社会事  
業大学清瀬キャンパス、2015年3月9日  
山野則子「SEL研究の到達点と将来展望」日本SEL学会第6回大会、東京オリ  
ンピックセンター、2015年3月

③ ポスター発表 （国内会議  0  件、国際会議  0  件）

（7）特許出願

① 国内出願（  0  件）

② 海外出願（  0  件）

（8）その他特記事項

代表者が内閣府の子どもの貧困対策検討会構成員をしているため、内閣特命大臣へのレクチャー、教育再生会議の自民党勉強会、中教審ワーキング、文部科学省全体の事務方へのレクチャーに呼ばれた。政府としてスクールソーシャルワーク制度を作成するよう働きかけてきた。本研究から端を発して、主張してきた、国としてのマニュアル作り、厚生労働省との関連として生活困窮者支援との連動など方針が正式に打ち出された。前者は予算枠に出され、後者は4月早々に通知文が出される予定である。政策に実際に反映させることができた。